

Point

J R 東海 労 大 阪 修 繕 車 両 所 分 会 分 会 情 報
No. 27 2010. 02. 05.
発行責任者 坂東 貞男
編集責任者 教 宣 部

安全の基盤とは

1月19日、日本の公共交通の一翼を担う日本航空(JAL)など3社が会社更生法を申請し、受理されましたが(負債総額は2兆3221億円)、そのことを伝える新聞に「会社を更正するにあたり国民の命にかかわる安全の基盤を壊してはならない」と安全への警鐘を鳴らす記事が掲載されていましたので、要点を紹介します。

『(安全)基盤とは、仕事への意欲やひたむきな努力といった数値化できないものだけに無視されがちだ。』

『経費節減や人員削減をするにあたっては安全へのアセスメント(影響の事前評価)をきっちりすることが重要だ。』

『効率主義、成果主義で物が言えない沈滞感が生じたり、機械的な人減らし貴重な人材が失われると安全文化を断絶させるから、格段の配慮が必要だ。』

と安全の基盤を壊してはならないと書かれてありました。

この記事は、日本航空に安全面で助言する第三者機関「安全アドバイザーグループ」の座長で、作家の柳田邦男氏が、航空会社の再建にあたっての人員やコスト削減に対する安全へのとらえ方について書かれたものです。同じ公共交通の一翼を担うJR東海にも通じるところがあるのではないのでしょうか。

リニア中央新幹線の自前建設で安全が犠牲にならないか？

さて、同じ公共交通の一翼を担うJR東海会社は、1月21日付けの勤労情報No14で中央新幹線東京－大阪間の調査報告について明らかにしています。その報告によると中央新幹線東京－大阪間の建設費に9兆円強もかかるそうです。

一昨年から続く不景気等によって減収している中、JR東海が目指す中央新幹線(東京－名古屋間)の自前建設ですが、本当に大丈夫でしょうか。もちろん建設費のことも危惧されるのですが、それ以上に安全が犠牲にならないかが心配です。

現在、JR東海はリニア中央新幹線建設の自前建設を目指して経費節減・コスト削減が命題となっており、ますます効率主義・成果主義が進められてくることが十分予想されます。だからこそJR東海で働く私たちが効率主義・成果主義によって安全が犠牲になることがないようにチェックしていかなければなりません。

JR東海労大 阪 修 繕 車 両 所 分 会 は、公共交通の一翼を担う会社の労働組合としてのチェック機能を働かせ、絶対に安全を犠牲にすることがないようにこれからも物を言っていきます。

